

立春朝搾りとは



「杜氏泣かせの酒」

「立春朝搾り」は搾りあがり「立春の日」と決まっているため、できあがり早すぎたり、遅くなったりしないよう、その年ごとの米質や気候の変化を察知し、完璧な管理と微妙な調整が必要となります。「大吟醸より難しい」という、杜氏の技量が問われる難しいお酒づくりから「立春朝搾り」は誕生します。

「縁起酒」

蔵元・酒販さん総出の出荷作業の間には、近隣の神社の神主さんによるお祓いが行われます。

お酒を造る人・届ける人・飲む人……〈立春朝搾り〉に関わるすべての人の無病息災、家内安全、商売繁盛を祈願。皆さまに幸多かれと、穢れのない新酒をお届けします。



「繋がるお酒」

蔵元がお客様の笑顔思い浮かべながら仕込んだ「立春朝搾り」を、地域の酒販店が早朝より蔵元に出向き、出荷作業、お祓いを済ませ、ご予約分を車に積み込み、お客様の待つ店舗へと戻ります。「立春朝搾り」は蔵元、酒販店、そしてお客様を繋ぎ、さらにおいしい笑顔と新しい春を運びます。



立春の日だけの特別なお酒。

「立春朝搾り (since1998)」は「日本名門酒会」(主宰：株式会社岡永(東京都中央区))が全国の協力蔵元に呼び掛け、地元の加盟酒販店と協力して行う地域ネットワーク共感活動です。蔵元では立春当日に合わせて最高の状態で酒搾りができるよう、「大吟醸より神経を使う」杜氏泣かせの仕込みが行われます。そして立春の日の朝に搾り上がった生原酒を地元の神社でお祓いいただき、造る人・届ける人・飲む人…「立春朝搾り」に関わる全ての人の無病息災、家内安全、商売繁盛、そして今年も疫病退散を祈願した「縁起酒」です。さらに、その日のうちに飲んでいただくため、早朝酒販店が蔵元に訪れ、予約分を車に積み込み、お客様の待つ店舗に持ち帰ります。今年も1本の『立春朝搾り』を通して大切な人と『繋がる』ため、令和7年は全国35都道府県41蔵元で開催します。

※「立春朝搾り」は登録商標です。



日本名門酒会

JAPAN PRESTIGE SAKE ASSOCIATION